

特集 ～移住～

だから！弘前ぐらし

「光るものや埋もれているもの」・「伸びしろと可能性」・「人の優しさ」。移住者の声で改めて気づく弘前の魅力。今回の特集では、国内外から弘前市へ移住した3人の思いに迫ります。



野口 拓郎さん (34歳)

茨城県出身。県外での地域おこし関連の仕事を経て、5年前に弘前大学の地域連携専任教員として弘前市へ。現在は「弘前圏域移住交流デザイナー」として、移住促進に向けた調査研究や移住に関する相談に応じている。

クロイス ザンドラさん(27歳)

ドイツ・デュッセルドルフ出身。1年間、弘前大学工学部へ留学し、1度帰国した後、3年半前に弘前市へ移住。観光関連の仕事を経て、現在は、市内のIT関連企業に就職し、ホームページ制作の仕事などに従事。

安藤 陽介さん (41歳)

東京都出身。幼稚園から高校まで弘前市で過ごした後、大阪府へ。4年半前にUターン。自然食品店「油屋福六」と飲食店「五穀発酵むすび庵」を運営する傍ら、コミュニティスペース「まちライブラリー」も運営。

移住のきっかけ

野口 (以下：野) 私は、茨城県出身ですが、地域おこし協力隊の仕事で広島県に行き、その後、島根県庁の地域おこし関連の研究機関に入りました。5年前に弘前大学の教員として採用されたことで、弘前に移り住みました。弘前ではさまざまな人との出会いや、大学を拠点にいろいろな活動ができたことで、他県にいた時よりも地域との関わり方が広がりました。それを生かして、現在は、弘前圏域移住交流デザイナーや地域おこし協力隊の専門相談員などの活動をしています。

ザンドラ (以下：ザ) 専攻したい学部があった弘前大学に留学したのが最初のきっかけ。短い期間でしたが、住んでいるうちにどんどん弘前が好きになっていきました。1度は帰国しましたが、弘前への思いが募り、休暇を使って海外で働くことのできるワーキングホリデー制度を利用して3年半前に戻って来ました。弘前では友達もできたとし、自然も身近にある。ちょうどいい街の大きさや津軽弁の響きも可愛いので好きです。

安藤 (以下：安) 私の場合、きっかけは父の病気。

後々帰りたい気持ちはありましたが、介護のためにUターンする時期が早くなりました。

移住者だから見えるもの



光るものや埋もれている資源がある

野 弘前はまだまだ光るものや埋もれている資源が多く、それに関わっている人も少ないと思うので、活用できるチャンスがあると思います。それから、宵宮(よみや)だったり、町会単位でねぶたを出していたり、地域の文化や伝統的なものが色濃く残っていて面白いですね。

安 私は、田舎にあんまり良いイメージが無く県外に生まれましたが、この歳になって戻ってくると、自然や食べ物の文化が残っていて、地元の美味しい米や野菜など、もっと注目すべきものがたくさん

あると思いました。そういう意味で伸びしろと可能性があると感じます。

ザ 弘前は人が優しい。私は季節ごとの魅力がある岩木山が大好きですが、ここにいる人もみんな岩木山が大好きですね。そういう地元愛もいいなと思います。ただ、地元の人に「弘前なんて何もない。東京に行けばいいのに。」と言われ、弘前だからこそその魅力があるのにと感じたことがあります。

野 確かに、いろいろな土地に住んでみて感じますが、弘前の人はずっと地域に対する誇りを持って良いと思います。都会に有利なものさしで測って、「なんでこんなところに来たの」と言われることがたまにあります。弘前に魅力を感じて移り住む人がたくさんいることを知ってほしいですね。

地元の農産物に
もっと注目してほしい

安 そうですね。例えば、温泉。いろいろな種類があるし。数も多い。都会ではちよろちよろとした源泉かけ流しに何人もが群がっている(笑)。もっと盛り上げてほしいのではないかと思います。

ザ 私も温泉は大好きです。詳しいねってよく驚かれます(笑)。料金も安いし、気軽に行けるからすごくいい。

移住者のために必要なものは？

野 移住者にとっては、移住した後が大切。困ったことがあっても誰に相談したらいいかわからないんです。地域に根差して、移住者をサポートできる人材がいるといいと思います。移住者に寄り添えるサポートと移住者のニーズに合わせた情報発信が必要です。弘前は東京事務所があるので有利だと思いますが、若い世代が弘前に戻ってきやすい仕組みを作れば良いと思います。いつかは戻って来たいという人はいると思うので、そういう人に向けて情報を発信できると良いですね。

また、町会長さんや地域で信頼されている人とつながると、地域に溶け込みやすいということが実体験としてあります。そういう点で町会長さんなどが果たせる役割があると思います。

安 私は、もっといろいろな人が交流できる施設やスペースがあれば良いと思います。少しずつ増えてきてはいますが、そういう場は大事だと思います。

友達の良さと人生の
楽しさがわかった



これからやっていきたいこと

ザ 弘前に来て、友達の良さや人生の楽しさがわかりました。ここにいるいろいろな人にお世話になったので恩返しがしたいです。私と接したことで外国人への苦手意識がなくなるなど、何でも良いので、自分にできることをやって地域貢献できたら良いなと思います。

安 青森の食料自給率の高さは誇るべきことだと思っています。だから、自分の店で地元の米や雑穀、野菜を使ったおむすびや料理を提供して、地元の農産物のすばらしさを発信し、もっと生産者を応援していきたいと考えています。また、メッセージを書いた本を貸し借りすることで人がつながる「まちライブラリー」の取り組みも広めていきたいです。

野 私はいろんな情報を持って来られる環境にいると思うので、何かやりたいという人に情報を提供していけたらと思います。

そして、弘前市周辺の7市町村を含む弘前圏域を対象にした移住相談業務も担っているため、移住を考えている人がいたら、気軽に相談してもらいたいです。話をしているうちに、その人が抱える課題なども見えてくると思うし、私だけで解決できないことは、行政や地域住民と解決の糸口を探す手伝いをします。家族や知り合いが移住について悩んでいる人も、ぜひ相談に来てほしいです。※野口さんへの問い合わせは企画課(☎40-7121)へ。

移住者交流会

移住者同士や市民、地域コミュニティがお互いに関わりを持てるよう、交流会を開催しています。弘前の楽しみ方や、仲間づくりの場を紹介するなど弘前暮らしを応援します。今後もいろいろな交流会を開催する予定です。交流会の情報は「弘前ぐらし」ホームページ(次ページ参照)をご確認ください。

